

# 笠岡湾干拓地の現状と課題

岡山県笠岡市

平成30年度版

# 干拓地の概要



## 笠岡湾干拓事業

■国営笠岡湾干拓事業と笠岡臨海工業用地造成事業と附帯する導水事業を一体化した多目的事業

事業主体 農林水産省  
事業年度 昭和41年12月着工  
平成 2年 3月完了  
事業費 300億円  
計画面積 全体面積 1,811ha  
農業用地 1,191ha  
工業用地 460ha  
港湾水域 160ha



一般配分用地	486ha
・入植農家	311ha
・増反農家	169ha
・入植者住宅用地	6ha
公的農業利用地	398ha
・粗飼料基地	382ha
・種苗管理センター	16ha
その他(運動公園他)	60ha
堤防、道路、排水路等	247ha
合計	1,191ha

※平成9年 第6次追加配分時

## 用水計画

水源	新成羽川ダム (高梁川水系成羽川、船穂揚水機 場場より取水)
用水量	250,000m <sup>3</sup> /日(最大)
笠岡干拓用水	92,700m <sup>3</sup> /日
岡山県工業用水	48,600m <sup>3</sup> /日
笠岡工業用水	36,700m <sup>3</sup> /日
寄島農業用水	12,000m <sup>3</sup> /日
西南上水道用水	60,000m <sup>3</sup> /日

## 配分状況

区分			面積	戸数	面積
入植	畜産	酪農	5～10ha	18戸	179ha
	耕種複合	個人	5ha	26戸	132ha
増反	園芸複合	個人	1～2ha	202戸	98ha
		法人	13・58ha	2法人	71ha

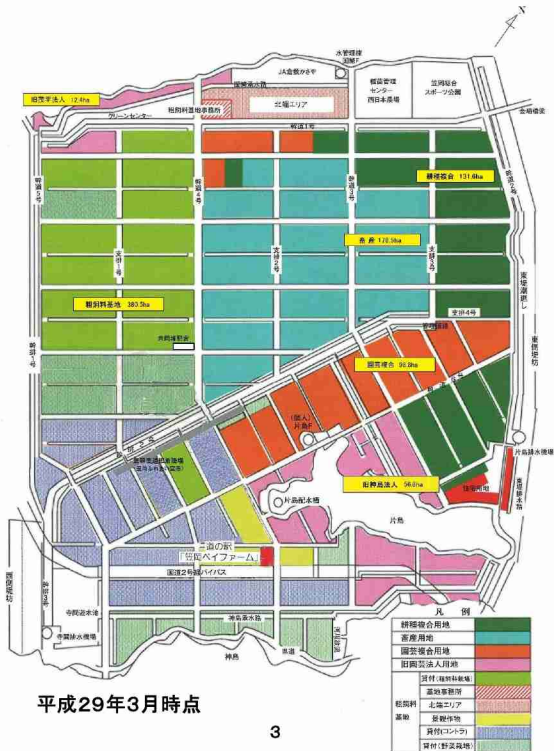
※平成9年 第6次追加配分時

## 事業経過

S34. 4. 1	調査開始
S41.12.16	事業着手
S44. 8	導水工事着手
S47. 3	導水工事完了
S48. 2. 8	事業計画決定
S50. 9	堤防締切完了
S52. 8	干陸排水完了
S59.11.12	土地配分計画決定
H 2. 1.17	最終干陸計画変更
H 2. 2.23	最終配分公告
H 2. 3.31	完工



# 笠岡湾干拓地の土地利用図



# 笠岡湾干拓地の農産物の作付状況と畜産飼養状況 (単位:ha,頭)

品目名	14年度	16年度	18年度	20年度	22年度	24年度	26年度	28年度
麦類	120.0	79.3	75.1	62.5	67.4	67.0	56.9	38.1
大豆	2.4	8.1	5.3	4.4	6.1	7.8	9.9	6.3
小豆(ササゲ含む)	41.4	41.5	34.0	36.5	34.3	38.5	38.6	38.5
キャベツ	11.7	11.0	11.4	9.6	2.3	10.5	18.5	26.3
タマネギ	23.3	7.4	15.0	11.9	8.8	10.3	13.3	19.9
馬鈴薯	0.5	-	-	-	-	-	-	-
にんじん	6.5	5.0	4.2	4.0	2.2	4.1	3.2	2.0
なす(施設含む)	3.4	4.1	4.0	4.1	4.0	3.4	2.3	1.9
ブロッコリー	-	2.9	33.1	50.8	50.0	102.0	107.3	114.1
かぼちゃ	-	-	-	-	6.1	21.2	27.9	29.9
いちご	-	0.6	1.1	1.1	1.0	1.4	1.4	1.2
ばら	4.2	4.2	4.0	4.5	5.0	5.4	5.8	6.5
花き(含洋ラン等)	4.2	4.7	4.8	4.4	4.6	3.0	2.1	1.9
イチジク	4.8	5.4	6.2	6.8	6.6	6.8	5.7	5.5
モモ	2.8	2.8	3.0	2.9	2.8	3.0	2.8	2.9
ブドウ	3.3	3.3	3.4	3.4	3.9	3.5	4.6	4.5
その他作物	38.0	25.8	25.6	23.3	22.0	28.9	29.8	29.6
計	266.5	206.1	230.2	230.2	227.1	316.8	330.1	329.1
畜産(乳牛)	1,950	2,167	2,353	2,288	2,234	2,425	2,439	2,904
(肉用牛)	1,201	3,035	3,267	3,679	4,002	4,084	3,868	3,649
計	4,869	5,202	5,620	5,967	6,236	6,509	6,307	6,553

# 干拓地の有効利用対策

芒種

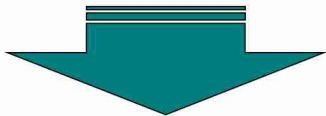


- 干拓地農業の振興
- 粗飼料基地の有効利用
- 国道2号笠岡バイパス道の駅の活用
- バイオマス資源利活用のための取組
- 干拓地水質保全への取組
- 笠岡ふれあい空港の活用

## ・ 干拓地農業の振興

### 課題

- 大規模集約農業地域である干拓地においても農家の高齢化・後継者不足が問題化してきています。
- 畜産農家の規模拡大が進み、牛ふんの処理が問題化してきています。



### 取組

- 干拓地に参入した農業法人等へ農地の集積を図り、農作業等の効率化を図ること
- 各種の助成制度の活用
- 地域製品のブランド化
- 牛ふん堆肥の干拓地外への販売など豊富に存在する牛ふんの有効活用に取り組むこと
- 井笠農業普及指導センター及び農業協同組合の連携による栽培技術や営農指導等への協力



## ● 粗飼料基地の有効利用

**現状** 全体面積 379.1ha

土地の一部を農業法人に貸し付けることにより  
基地の有効利用を行っています。

平成29年度より、牧草栽培地(144ha)を  
農業法人等へ貸し付け、基地の面積のほぼ全て  
が貸付されています。



### ■ 貸付面積

参入企業等	年度	18	20	22	24	26	28
I Loveファーム笠岡	面積 (ha)		25	25	57	58	58
アグリインダストリー		13	13	13	13	13	13
干拓コントラ			116	116	116	116	116
エーアンドエス					10	11	10
サンマルクホールディングス						1	1
笠岡湾干拓地畜産生産組合		0.3	0.3	0.3	20	17	0.5
合計		13	154	154	216	216	199





## ・ 粗飼料基地の有効利用(2)

### 北端エリアの利用状況

■粗飼料基地の北端エリア(22ha)について、県と連携しながら、民間活力を導入し、干拓地農業の活性化のために有効利用していくこととし、市では農業関連施設の誘致を積極的に進めてきました。

■北端エリアには、平成28年3月時点で2社の農業法人が進出しており、同月末には次世代施設園芸拠点(18.3ha)の誘致が決定し、(株)サラと市で協定を締結しました。

■これにより、北端エリアの全てが農業法人に貸し出されることとなり、有効活用がはかれる見込みです。



(株)サラが設置予定の次世代施設園芸施設  
＜平成31年4月稼働予定＞



(株)I Loveファーム笠岡の野菜集出荷施設  
＜平成26年10月稼働＞

# ・国道2号笠岡バイパス道の駅の活用

## 道の駅「笠岡ベイファーム」

■地域の農産物をレストランの食材に使用することで地産地消に努めるとともに、地元の農水産物を販売し、観光や文化など地域情報を発信しています。また、周辺に菜の花・ポピー・ひまわり・コスモスなど景観作物を植栽して集客力の向上を図ります。



施設整備概要				
種別	管理者	内容	数量	
施設用地	国土交通省	カプト南町245-4	4,525.53㎡	
	笠岡市	カプト南町245-5	1,003.41㎡	
	合計		5,528.94㎡	
施設内訳	国土交通省	一般者駐車場	大型車	11台
			普通車	27台
		休憩所・道路情報提供施設	78.1㎡	
		トイレ	男・小便器・6基	137.16㎡
	男・BOX・3基			
	女・BOX・6基			
	身障者・BOX・1基			
	笠岡市	地域振興施設	地域情報提供コーナー	29.48㎡
			食事提供コーナー	182.50㎡
			地域産品販売コーナー	313.72㎡
管理運営エリア			100.34㎡	
合計			636.02㎡	
管理者関連トイレ		男1基+1基・女2基	9.99㎡	
管理者関連駐車場	普通車	9台		

## 道の駅「笠岡ベイファーム」来客数の推移

年度期	来客数(人)
23	876,360
24	798,563
25	844,535
26	855,314
27	858,345
28	889,499

商工観光課集計データより

## ・バイオマス資源の利活用

笠岡市笠岡湾干拓地域バイオマスタウン構想(平成20年5月農林水産省公表)を踏まえながら笠岡湾干拓地において「環境にやさしい持続性のある農業」の実現を目指して課題に取り組んでいます。

### 構想の内容

笠岡湾干拓地はバイオマス資源が集積し、かつ効率的な運搬収集が可能であり、バイオマス利活用のモデル地域として取り組むことで干拓地農業の活性化を目指します。

#### (1)地域のバイオマス利活用方法

- ① 牛ふん堆肥製造施設の充実
- ② 油糧作物の活用と廃食用油利用によるバイオディーゼル燃料の製造
- ③ バイオエタノール製造プラントの誘致

#### (2)バイオマスの利活用推進体制

笠岡市バイオマス利活用推進協議会

・笠岡湾干拓地関係者、市民、事業者、行政、大学等研究機関で構成



## ・バイオマス資源の利活用(2)

### これまでの取組

#### ■牛ふん

笠岡湾干拓地の粗飼料基地にある共同堆肥舎を平成26年度に増設し、平成27年6月から使用しています。

#### ■バイオディーゼル燃料(BDF)

笠岡学園((福)笠岡市社会福祉事業会)により市内外の事業所や神島地区の家庭などから廃食油を回収してバイオディーゼル燃料を製造する取組を平成20年度から27年度まで行いました。

#### ■バイオエタノール

平成20年度から誘致に向けて調査・研究を行いましたが、太陽光などの他のエネルギーより製造コストが高いことなどから平成26年度末に活動を終了しました。



## ・ 干拓地の水質保全対策

### 現状

■ 笠岡湾干拓地内の農業活動や隣接集落からの生活排水の流入等による、干拓地内の水路や遊水池の水質悪化に伴い、放流先の港湾水域の水質保全対策が課題となっています。



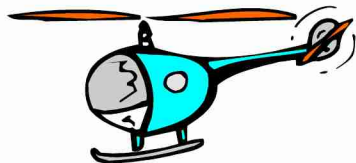
### 対策

■ 笠岡湾干拓地水質保全対策検討委員会から示された水質保全対策(14項目)を順次実施しています。

- 平成20年度から干拓地の水質保全対策について関係者及び一般市民に周知するとともに、協力要請の活動を開始しました。
- 納豆菌や乳酸菌などを原料に培養した「えひめAI-2(あいこ)」(環境浄化微生物資材)の普及と啓発を行っています。
- 平成21～22年度に1号幹線排水路の浚渫を実施しました。
- 平成23年度から上流地域の一部で下水道の供用を開始しました。
- 平成27年6月から共同堆肥舎の増設部分の稼働を開始しました。



# ■ 笠岡ふれあい空港の活用



## 笠岡ふれあい空港の概要

事業主体	岡山県
事業費	5億6,600万円 (用地費除く)
負担割合	国40%, 県50%, 笠岡市10%
施設概要	滑走路 800m×25m 着陸帯 920m×60m 誘導路 37.5m×9m エプロン 50m×40m
整備目的	農産物の空輸により付加価値を高めて農業振興を図る

高速道路網などの整備に伴う輸送形態の変化により、平成19年度に農産物空輸を休止

## 多目的利用により有効活用を図っています

「大空と大地のカーニバル」や車両展示などの各種イベントをはじめ、防災ヘリの訓練、試験車両の走行、人力飛行機の練習等積極的に有効活用に取り組んでいます。

平成28年度施設使用に伴う収入額：791万円  
(H28年決算書より)





- 笠岡湾干拓地は笠岡市民にとって貴重な財産であり誇りでもあります。
- その有効利用は笠岡市の重要施策であり、**環境にやさしい持続性のある資源循環型農業**の実現を目指します。